

## 安心のために、年に一度は検診を **大腸・肺・胃がん追加検診のお知らせ**

今年度、大腸がん・結核肺がん・胃がん検診を受ける機会がなかった方に対して追加検診を実施します。  
受診を希望される方は、必ず申し込みが必要です。申込期間終了後に問診票等を郵送します。



- ◆**対象者**  
市内在住の40歳以上で、今年度、大腸がん・結核肺がん・胃がん検診を受診していない方
- ◆**申込期間**  
9月21日(火)～10月20日(水)  
※土日祝除く
- ◆**申込方法**  
右記問い合わせ先まで電話  
(受付時間:平日の8時半～16時)
- ◆**定員**  
胃がん検診のみ、定員(40名)になり次第、受付を終了します

	大腸がん検診	結核肺がん検診	胃がん検診
検診内容	便潜血検査2日法 ※自宅で2日間の便を採取して下記日時に提出	胸部エックス線検査 喀痰細胞診 (問診により必要な方のみ)	胃部エックス線バリウム検査
日時・場所	11/12(金)9:30～11:00 津田保健センター	11/12(金)8:30～11:00 津田保健センター	11/12(金)8:30～11:00 津田保健センター ※受付 10:50 まで
	11/14(日)9:30～11:00 寒川庁舎	11/14(日)8:30～11:30 寒川庁舎	
自己負担金	500円	64歳以下:300円 65歳以上:無料 喀痰細胞診:700円	1,500円
	生活保護法による被保護世帯に属する方については自己負担金免除		
備考	代理の方による提出可		アレルギーの有無や既往歴により申し込み出来ない場合があります

【問・申】国保・健康課(健康係) ☎(0879)26-9908

## 国民健康保険、後期高齢者医療にご加入の皆様へ

### 健康診査は受診されましたか?【10月30日まで】

【特定健康診査】40歳～74歳のさぬき市国民健康保険にご加入の方  
【後期高齢者の健康診査】さぬき市内の後期高齢者医療にご加入の方  
※一部対象から外れる場合もあります。

対象の方には、5月下旬頃に受診券を送付しています。  
受診券等を紛失された方は、再発行ができます。

- ①受診する医療機関を確認する場合 実施医療機関へ直接お問い合わせください。(受診券同封の案内参照)
- ②医療機関で健康診査を受診する場合 <持ち物> 受診券・質問票・保険証・自己負担金800円

※職場の健診を受けた方や、かかりつけ医等で特定健診と同等の項目を検査している方は、その結果と質問票のご提供をお願いします。その際は、国保・健康課(寒川庁舎2階)または各地区で実施される健康相談会場へお持ちください。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、マスクの着用・手指の消毒等にご協力をお願いします。  
※発熱等体調が優れない場合は受診をひかえ、体調が回復してから受診してください。

【問】国保・健康課 ☎(0879)26-9907

## 10月・11月は麻薬・覚せい剤 乱用防止運動期間です

麻薬、覚せい剤、大麻、シンナー、危険ドラッグなどの薬物乱用は、健康上の問題にとどまらず、犯罪や交通死亡事故など社会にも大きな影響を与えます。

一人ひとりが薬物について正しく理解し、薬物乱用を許さない社会環境をみんなで作りましょう。

薬物乱用を防止するためには

- 薬物乱用の危険性は身近にあり、自分には関係ないことと思わずに気を付けること
- 誘われても断る勇気を持つこと
- 一人で悩まないで誰かに相談すること

薬物乱用の問題で困ったときの相談窓口

香川県警察本部	警察総合相談	#9110
香川県警察本部少年課	少年相談電話	(087)837-4970
四国厚生支局麻薬取締部	「麻薬・覚せい剤」相談電話	(087)823-8800
香川県精神保健福祉センター	こころの電話相談	(087)833-5560
香川県健康福祉部薬務感染症対策課	薬物相談電話	(087)832-3300

【問】国保・健康課(健康係) ☎(0879)26-9908

## 10月17日(日)～10月23日(土)は『薬と健康の週間』です 薬の上手な使い方

私たちの健康を守るため、薬はなくてはならないものです。  
この機会に、薬との上手な付き合い方を考えてみませんか。

- 「お薬手帳」を持ち、1冊にまとめましょう。  
医師や薬剤師が、薬の飲み合わせや重複、副作用やアレルギーなどをチェックしてくれます。  
また、災害や旅先などでは、服薬状況などが分かり、適切な治療が受けられます。
- 「かかりつけ薬剤師・薬局」を持ち、分からないことは相談しましょう。  
かかりつけ薬剤師は、使用している薬などを把握した上で、効果的な治療ができるようにサポートしてくれたり、薬に関する相談ができます。
- 食べ物やサプリメントとの飲み合わせに注意しましょう。  
飲み合わせによって、副作用や症状の悪化など、体に負担がかかる場合があります。  
医師や薬剤師には、今使用している薬やサプリメントなどを伝えましょう。
- ジェネリック医薬品(後発医薬品)を利用しましょう。  
ジェネリック医薬品とは、特許が切れた新薬と同じ成分・効き目を持つ医薬品です。  
新薬よりも低価格で、家計にやさしい薬です。
- 薬の効果を最大限得るため、医師に指示された量や使い方を守りましょう。
- 誤飲を防ぐために、子どもの手の届かないところに保管しましょう。
- 品質低下を防ぐために、直射日光、高温、湿気を避けて保管しましょう。
- 健康被害やトラブルを避けるために、インターネットでの医薬品の購入に注意しましょう。

【問】国保・健康課(健康係) ☎(0879)26-9908